

冬期スクーリング

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み方を重視し、これに最終時限の試験を加えて総合的に評価する。

具体的には「平常点」50%、「試験」50%で評価する。平常点では何よりも学問的意欲を重視する。到達目標に掲げた項目の達成度も考慮する。

全6日の内、欠席が2日を超えた場合は不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート結果がないのでコメントできません。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

沿岸域の野外活動が中心となるため、防寒・防風対策を念入りにしてほしい。また、公共交通機関や徒歩による移動を念頭に動きやすい服装・装備で臨むこと。

実施期間：2018年1月29日(月)～31日(水)

実施場所：知多半島および離島(篠島や日間賀島を検討中)

費用(宿泊費・交通費等)：30000円程度

宿泊場所：未定(半田市内のビジネスホテルを予定、2泊とも同じ場所)

2群 前半終日

GEO300TE
現地研究(自然)(冬期スクーリング)
羽佐田 紘大
カテゴリー：冬期 予備登録の有無：必要 授業形態：スクーリング 単位数：1単位 期間：2群 前半終日(3日間集中) 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

知多半島とその周辺地域を事例に、丘陵や沿岸域の自然環境を理解し、人間活動との関係を考えていく。

【到達目標】

- 1) 知多半島の丘陵や離島を含む沿岸域の自然環境の特色を理解できる。
- 2) 対象地域の産業を把握した上で、自然環境と人々とのかかわりについて考察できる。

【授業の進め方と方法】

基本的には、終日屋外(一部屋内施設を利用)する。行程(予定)は以下の通りである。

- 1日目：現地集合。知多丘陵やその周辺を見学し、自然環境について把握する。
- 2日目：師崎周辺の自然環境を観察する。その後、三河湾に浮かぶ離島(篠島や日間賀島を検討中)に渡り、自然環境と人々とのかかわりについて学ぶ。
- 3日目：半田や常滑周辺の自然環境と人々とのかかわりを考える。現地解散。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

知多半島および三河湾の離島の自然環境(地形・地質・植生など)や半田・常滑市の産業について事前に予備知識を得ておくことが望ましい。

【テキスト(教科書)】

使用しない。

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

全日程の出席が成績評価の前提である。授業への積極的な姿勢(50%)および事後レポート(50%)により評価する。

HUG300TE
現地研究(人文)(冬期スクーリング)
中川 秀一
カテゴリー：冬期 予備登録の有無：必要 授業形態：スクーリング 単位数：1単位 期間：2群 前半終日(3日間集中) 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

地域づくりの先駆的な取り組み事例の現場を訪ねて、その現在と将来展望を検討する。古民家の再生を核に地域の活動グループと連携し、都市と地方の生活者の結合を図ることで、地方の課題を軽減したり解消する試みについて考えたい。今回は、瀬戸内海に面する香川県西部のかつて製塩業で栄えた地方町が、産業の衰退にどう対応してきたか、全国で展開している地域運営組織による内発的活動の取り組みの現場とあわせて視察する。

【到達目標】

古民家の再生を核に、地域の活動グループと連携しながら都市と地方の生活者の結合を図る活動を中心に視察する。

そこで、①仁尾町の古民家「松賀屋」を保全するシェアビレッジの活動を通じて、その意義を町の歴史的背景を探りつつ考える。

この地域は瀬戸内海に面する香川県西部のかつて製塩業で栄えた地方町である。したがって、②塩田跡地利用、特に産業誘致、平成の大合併による住民の生活条件など行政がもたらしてきた地域の住民生活への影響について考察する。

③仁尾町の人々が自発的に行ってきた地域活動団体を通じて、地域の人々の活動にも注目したい。土地に根差した地域産業が衰退した後の地域変化について、さまざまな資料を照らし合わせながら、現地視察によって総合的に理解を深めることを目指す。

【授業の進め方と方法】

参考資料を事前に配布し、参考文献を提示することで、事前に地域と課題の意味を理解しておく。現地では、初日に貸し切りバスに乗って巡回視察することによって地域の実態と全体像をつかむ。2日目は、地域の活動を行っている方々の話を聞くとともに、町の歴史と現況とを案内者とともに歩いて視察する。最終日の午前中は、各自が課題を設定して資料集などの活動をし、午後には現地で活動する人たちと意見交換のミーティングを行い思索を深め、後日、その成果をレポートにまとめて提出する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ミーティング①	オリエンテーション
1日目		講義のねらいと概要
第2回	三豊市の概要	三豊市の現況の概観をつかむ
1日目		
第3回	製塩業の跡地利用	埋立地と産業誘致(詫間)
1日目		住宅地、車エビ養殖(仁尾)
第4回	地域運営組織の制度とまちづくり推進隊の取り組み(財田)	活動
1日目		
第5回	地域住民組織の活動①「誇」の取り組みの概説	
2日目		

第 6 回 町内視察 2 日目	仁尾の歴史と産業
第 7 回 町内視察 2 日目	仁尾酢の蔵見学
第 8 回 地域住民組織の活動② 2 日目	古民家の保存と活用
第 9 回 ミーティング② 2 日目	課題設定と活動の確認
第 10 回 自由活動 3 日目	課題について各自資料収集
第 11 回 都市と地方を結ぶ 3 日目	シェアビレッジについて
第 12 回 ミーティング③ 3 日目	意見交換・質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に資料を配布するので、準備をしておくこと。成果はレポートとして事後にまとめて提出する。

【テキスト（教科書）】
後に連絡し、提示する。

【参考書】
次の web サイトに目を通してほしい。
三豊市：<http://www.city.mitoyo.lg.jp/forms/top/top.aspx>
仁尾興産：<http://www.navio.ne.jp/aboutus.html>
シェアレッジ：<http://sharevillage.jp/>

【成績評価の方法と基準】
基本的には、調査後に提出するレポートによって成績を評価する。ただし、現地のさまざまな方々の協力によって本講義は成立している。現地ではミーティングを重ねながら考察を深める予定である。ディスカッションでの積極的な参加姿勢も考慮したい。また、受講態度が著しく不良な場合には減点することもあるので注意されたい。厳密ではないが、レポート（80%）、平常点（20%）を目安に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は、複雑なテーマ設定であったと思う。今回は、産業の変化（衰退）に人々がどう対応してきたか、という緩やかなテーマ設定の中で、見るべき視点を提示することとしてみた。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
資料配布をメールで行います、PC のアドレスで連絡できるようにして下さい。

2 群 後半終日

GEO300TE
測量学及び測量実習（2）（冬期スクーリング）
高野 良仁
カテゴリー：冬期 予備登録の有無：必要 授業形態：スクーリング 単位数：2 単位 期間：2 群 後半終日（3 日間集中） 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
空間に関する最も基本的な情報は位置に関する情報である。位置に関する情報を取得する手段として用いられるのが測量である。この授業では、測量に関する基礎的な理論を学ぶとともに、実習を行うことにより測量の基礎的技術の習得を目指す。特にトータルステーションを用いた基準点測量及び最新の技術である G N S S 測量を中心に講義、実習を行う。あわせて、測量士補資格に必要な知識を習得する。

【到達目標】
測量に関する基礎的知識を習得する。基準点測量の理論を理解することにより、実習で得られたデータの計算処理を習得する。また G N S S 測量の原理と方法を理解する。

【授業の進め方と方法】
基準点測量の方法について学び実習を行う。実習で得られた観測データに基づいて新点の座標及び標高の計算を行う。また、G N S S 測量の原理について講義を行い簡単な実習を行う。この授業では、教室で行う講義と実際に機材を使った実習を組み合わせる基準点測量の方法について学ぶ。

回	テーマ	内容
第 1 回	基準点測量の概要	基準点測量の概要についての講義を行う
第 2 回	基準点測量の方法	基準点測量の方法について講義を行う
第 3 回	基準点測量の実習 1	三脚の据え方及びトータルステーションの使い方を実習する。
第 4 回	基準点測量の実習 2	トータルステーションによる角観測及び距離測定の方法を実習する
第 5 回	基準点測量の実習 3	トータルステーションを用いた基準点測量を実習する
第 6 回	基準点測量の実習 4	トータルステーションを用いた基準点測量を実習する
第 7 回	基準点測量データの処理 1	基準点測量のデータ処理方法について講義する
第 8 回	基準点測量データの処理 2	基準点測量実習データの処理方法及び測量結果の整理を実習する
第 9 回	基準点測量データの処理 3	基準点測量実習データの処理方法及び測量結果の整理を実習する
第 10 回	G N S S 測量 1	G N S S 測量の原理について講義する
第 11 回	G N S S 測量 2	G N S S 測量方法について講義する
第 12 回	G N S S 測量 3	ハンディー G N S S を用いて G N S S 単独測位を体験する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間内に終了しなかったデータ整理はグループごとに協力して次の時間までに終わらせておくこと。
電卓は機種によって使い方が異なるので、持参した電卓を使えるようにしておくこと。（例：sin、cos の関数）

【テキスト（教科書）】
長谷川昌弘・川端良和「改訂新版 基礎測量学」電気書院

【参考書】
書店では測量学に関する様々なテキスト、図解テキストが売られている。自分の興味やレベルに応じた本を参考とするとよい。
中堀義郎ほか著「絵で見る基準点測量 第 2 版」日本加除出版
飯村友三郎ほか著「公共測量教程 T S - G P S による基準点測量 三訂版」東洋書店

【成績評価の方法と基準】
出席、授業中の行う計算・測量の成果（最終課題）、実習態度を総合して評価する。提出物の欠如 4 回以上（実習期間については 3 回以上）の欠席者には単位を与えられない。

【学生の意見等からの気づき】
地球の形状及び位置の基準といったような夏期スクーリングの内容と重複する箇所は省略する。

【学生が準備すべき機器他】
関数電卓及び直定規必ず持参すること。三角関数を用いた計算を行う。